



(¥ 3,000.-)

実用新案登録願(4)

昭和50年11月19日

特許庁長官 殿

1. 考案の名称 ジ フ ハ バ キ
自 動 販 売 機

2. 考 案 者

住 所 モリダチシケイハンホンドオリ チョウノ バンチ
守口市京阪本通2丁目18番地

サンヨーデンキ
三洋電機株式会社内
氏 名 ヤマ ザキ シウ ゴ
山 崎 修 吾 (外1名)

3. 実用新案登録出願人

住 所 守口市京阪本通2丁目18番地

名 称 (188) 三洋電機株式会社

代 表 者 井 植 薫

連絡先：電話(東京) 835-1111 特許センター駐在 録出

4. 添付書類の目録

(1) 明 細 書

1 通

(2) 図 面

1 通

(3) 願 書 副 本

1 通

50-158343

BEST AVAILABLE COPY

明 細 書

1. 考案の名称 自動販売機

2. 実用新案登録請求の範囲

商品と釣銭とが同じ受取口に販出されてなる自動販売機に於いて、前記受取口内に、常時その上部の供給口を閉塞して放出されてくる前記商品及び釣銭を一旦保持する受板を設け、前記受板は前記受取口に挿入される手により押し開けられ手の掌に商品と釣銭とが一層に受け入れられてなる自動販売機。

3. 考案の詳細な説明

本考案は販売商品と釣銭とが同じ受取口に販出されて来る自動販売機に於ける受取口の構造に係り、特に現在、汎用されている切符自動販売機に採用して有益なるものである。又、その他、食券販売機等にも適用可能である。

以下、本考案の一実施例を図面に基づいて説明すると、(1)は切符自動販売機の本体で、(2)はその切符受取口である。そして、この受取口(2)には切符の他に釣銭もここに出てくる形式である。

(2)

(3)は前記受取口(2)の上部に位置する供給口部で、切符と釣銭とが一階にこの供給口部(3)に落下してくる。(5)は受取口(2)の奥部に、常時、供給口(4)を塞ぐよう設けられた受板で、その上端を蝶番(6)で軸支され、背面に設けたコイルスプリング(7)により、前述の閉塞状態に保持されている。故に、販売動作により、落下されてくる切符と釣銭とは、この受板(5)及び内壁(8)とで構成されるホッパー状の前記供給口部(9)に一旦保持される。又、前記受板(5)には、その下端に、略コの字状の押当て部(5')が設けられ、この押当て部(5')に、前記受取口(2)に挿入された手先が当り、これを後方に押し開ける。00は受取口(2)の前端に設けた立上り縁である。

次に、本考案の作用を説明すると、供給口(4)は第(2)図の如く、常時受板(5)によつて閉塞されているので、コインを投入、行先の釦を押すと、切符と投入金額から選択金額を差し引いた釣銭額とがこの供給口部(3)に落下、一時保留される。次いで、手を受取口(2)に差し込んで、受板(5)の下端押当て部(5')を回示点線の如く、コイルスプリング(7)に抗

して押し開けば、手の掌上に、切符と釣銭とを一
緒に捕むことができ、従来のように受取口(2)にバ
ラバラにある切符と釣銭とを一々、捕み取らなく
ても良く非常に受け取りがし易い。尚、手の掌か
らややもしてこぼれた場合は従来と同じように取
れば良い。

以上、本考案は商品と釣銭とが同じ受取口に出
てくる販売機に於いて、従来では一々、そこに出
て来た品物と釣銭とを取らねばならず、非常に不
便であつたのを、受取口の奥部に、常時、その上
部の供給口を塞いで、販売動作により放出されて
くる商品と釣銭とを一旦保持する受板を設け、こ
の受板を、受取口に挿入された手により押し開き、
それによつて、手の掌上に商品と釣銭とが一揃に
なつて落下してくるような構成としたので、片手
を受取口に単に差し込むだけで、商品と釣銭とを
同時に受取れるので、非常に便利である。

特に、現行商品として切符の自動販売機、或い
は食券自動販売機に適用して、効果大である。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を示し、第一図は本考案機構を採用した自動販売機の正面図、第二図は要部断面図である。

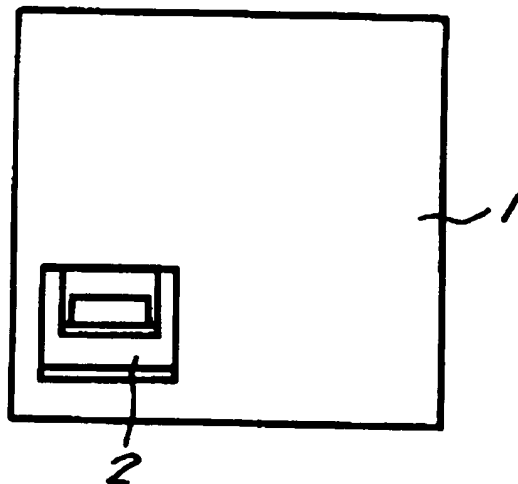
2 ……受取口、(4) ……供給口、5 ……受板

実用新案登録出願人

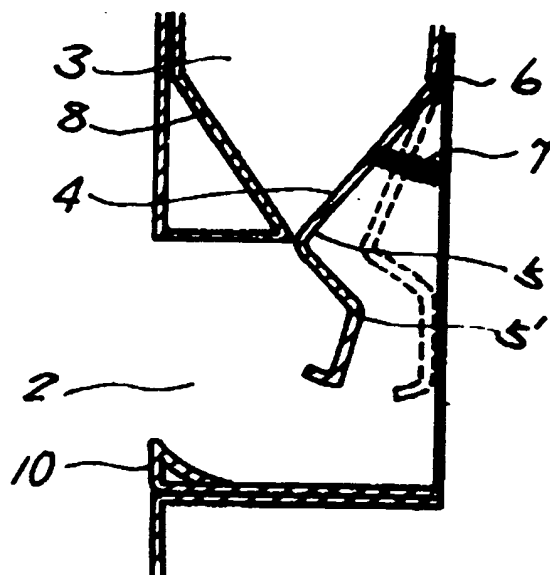
三 洋 電 機 株 式 会 社

代表者 井 植 薫

第1図



第2図



70000

実用新案登録出願人 三洋電機株式会社

代表者 井 植 薫

BEST AVAILABLE COPY

5. 前記以外の考案者

住 所 モリグチ シケイハンホンドリオリ チョウメ パンチ
守口市京阪本通2丁目18番地

サンヨーデン キ
氏 名 三 洋 電 機 株 式 会 社 内
加 木 和 彦
黒 木 和 彦